

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600225		
法人名	株式会社 You More Smile		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町稲富字大明神前1108番地の3		
自己評価作成日	令和 2年 9月 8日	評価結果市町村受理日	令和 2年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigovsvCd=2192600225-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 2年 9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者おひとりおひとりの思いや残っている力を尊重し、その人らしい暮らしをしていただけるようにサポートするような支援を心がけています。身体や、精神面などの変化があった時は決まったやり方で押し通すような援助はせず、少人数のホームである強みを活かして臨機応変な対応ができるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体の変更はあったが、職員の入れ替えも無く、これまでと同じ理念を掲げて支援している。理念の柱となっている「自立した日常生活を営む」に沿い、利用者の身体的な機能の維持を介護計画に取り上げて支援している。
左手に障害を持つ女性利用者は、歩行器を使った歩行が可能であるが、左手を使うことに消極的である。左手の拘縮が進むと、歩行をはじめ日常生活が破綻すると考える職員は、「左手の機能維持」を支援の主題(援助方針)として取り組んでいる。介護計画には、左手の日常的な生活リハビリの数々が盛り込まれている。自らの役割を「新聞折り」、「居室の掃除」、「リビング清掃」と位置付けている男性利用者の介護計画には、「家事手伝い」が目標として設定されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感染症予防のために地域の行事も外出もできない状況ではあるが、住み慣れた地域に密着して生活続けることの意義を職員間で理解し実践につながるようになっている	運営する母体法人は変わったが、基本的な理念は変わらずに、事務室に「家庭的な雰囲気の下、自立した日常生活の維持」を掲げている。理念に忠実に、これまでと変わらない支援を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防のためにすべての行事や運営推進会議なども実施できない状況ではあるが、書面にて報告事項を作成し、民生委員などに配布し、施設の運営内容などを知っていただくようになっている	近隣の住民から、採れたての野菜のお裾分けはあるものの、コロナ禍によって地域との交流が途絶えている。ホームの庭先までやって来る子供神輿も、今年は祭礼の中止によって見物することはできない。	コロナ禍に係わらず、地域との交流・連携は活発とは言い難い。町内会活動等を通して、地域との距離を縮めたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症予防のために何か開催することなどは今の時期はできない状況ではあるが、このような施設があることが地域のなかで着実に浸透している実感はあるため活かす方法を今後検討したい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は施設内での開催は感染予防の観点から見送っている状況ではあるが、報告内容の書面を作成し、関係各所に配布し報告をおこなっている	2月以降の運営推進会議が書面会議となっているが、市主導の地域ケア会議と併催される町内6ホームが参加する合同運営推進会議が、6月に開催された。他ホームの取組みの様子が分かり、有益な会議となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には連絡をとり、協力関係を継続するようになっている	地域ケア会議(合同運営推進会議)が、地域包括支援センター主催で開催され、管理者が参加した。生活保護受給者や身元保証人のいない利用者があり、役場と連携して支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、スタッフ全員が委員となり身体拘束の無益性を理解し身体拘束を行わないのを当たり前という考えのもとケアに取り組んでいる	毎月のスタッフミーティングの中で、「身体拘束委員会」を開催し、不適切な支援の防止に努めている。きつい言葉で利用者へ接し、スピーチロックが疑われる場合には、管理者がその場で注意したり、スタッフミーティングで取り上げたりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者からどのようなことをされたら虐待に当たるのかのラインをもっと職員間ではっきりと線引きを設けるように今後も努力をしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年々利用者のを取り巻く家族関係などが多様化し困難な事例も増えていく傾向にあり施設としても対応できるよう知識を増やしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明をし、わからないことや疑問についても確認を行っている。入居後にも問い合わせをいただければ対応させていただく旨を説明ご納得いただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症対策のため面会などが難しい部分があるが、ケアプランの更新時などにはご意見がいただけるようお願いをしている	家族の面会を制限し、一時は「面会禁止」であったが、現在は「5分間、玄関での対面」のみ認めている。介護計画の見直しに際して、電話で家族の意見や要望を聞き取っている。	運営推進会議やホーム行事への参加呼びかけに、家族の反応が鈍い。「ホームに全てお任せ」的な雰囲気なを払拭し、家族がホーム運営に協力する仕組みの構築が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングには本社や統括も参加し、率直な意見や質問などを言ってもらえる機会をつくっている。管理者や統括などが汲み上げ報告することもある	職員の入れ替わりが少なく、管理者と職員は何でも言い合える関係が構築されている。運営法人の変更に関しても職員に動揺はなく、全ての職員が継続して雇用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表への記入の他管理者からの評価なども加えスタッフの評価をおこなっている。働きやすい環境にできるよう、運営側も努力したい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は感染症対策などで、外部の研修などの開催も多く見送られてきたが、自治体主催の研修や訪問があり、少人数ではあるが参加することができた。今後も増やしていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策の観点より交流する機会はなかなかないのが現実ではあるが、情報共有などを電話などで図りながら実施していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時のアセスメントで必要な情報はスタッフ間で共有し、少しでも早く安心して生活していただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時にご家族とお話する中でどんな要望や悩みがあるのかを汲み取り良い関係作りにつなげるようにと考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際に今年度に入居を希望された方の中にそういった事例があった		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活している一員と考え、生活の場であることを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ごとにいろいろな事情もあるため、それを加味しながら絆が続くような援助となるように考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防の観点から、現在はご家族以外の面会は遠慮していただいている。今後WEB面会などの整備も考えているが、今の時期には難しい問題である	友人・知人の来訪が、無くなってしまった。2ヶ月毎に来訪する訪問理美容が新たな馴染みの関係となっている。男性美容師が来ると男性利用者が、女性美容師が来れば女性利用者が、会話を弾ませている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係などはかなり気を配る部分であり、関わりあっていただくことで個々の生きるハリにもなっているため今後も支援を続けていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今回、以前利用されていた方の親族の方がここを指名して入居してくださった。これからもそういったことが続くように努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人本位で検討するように努めている。少人数ホームであることを強みと考え出来る限り実行できるようにしている	半数以上の利用者が、自らの思いを正確に言葉で表出することができない。利用者の表情や様子を見て、職員が思いを押し量って支援している。「思いを叶えよう」との、職員の強い気持ちがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの様子などを入所時にお尋ねし、ホームでの暮らしのヒントにさせていただくように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング内でモニタリングを行い、変化を把握しスタッフで共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング内や更新時などにスタッフでモニタリングを実施し、介護計画に反映できるようにしている。	理念にある「自立した日常生活を営む」に沿い、左手の機能を維持することを介護計画に取り上げて支援している。新聞折りや居室の掃除、リビング清掃等を役割とする利用者には、「家事手伝い」がプラン化されている。	介護計画が6ヶ月ごとに見直されているが、「利用者、家族の意向」や「長期・短期目標」は繰り返しが多い。的確に利用者の意向を掴み、介護計画に反映させることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が書いてあることでスタッフ間の情報共有や、ケアの実践に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族ごとに事情も違い、伴ってニーズも違っている部分がある。柔軟な対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防の観点から地域への参加なども難しい状況ではあるが、暮らしの中で支えに必要な際は工夫して支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医はいるが、特に強制などはせずご家族の希望に添えるように対応している。週に1度訪問看護師が来るため、変化などがあった際は相談等にも乗ってもらえる	月に2回の協力医の往診と毎週の訪問看護師の健康チェックによって、利用者の健康管理が行われている。利用者全員が、2週間に1度の歯科医の定期往診と歯科衛生士による口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの連携もあり、週に1度の訪問時等には相談にも乗ってもらえる。急変時や事故などの際にも来てもらえるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については病院と施設での情報交換を行い、早期の退院が出来るようどの程度の回復で退院できるかなどの相談をしており、退院時の受け入れがスムーズに行えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は重度化の段階にある方はいないため特に行っていないが、看取りを実施した実績もあり今後もご家族やご本人の意向で必要となった際はチームでの支援を行えるように配備したい	協力医療機関との条件が合わず、ホームでの看取りの実施は難しいが、家族の強い要望があつて看取りが実現した。家族が訪問看護ステーションとの個人契約を行い、医療行為(ガーゼ交換等)にも対応した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを配置している。感染予防の観点から今年は救急隊員による研修は難しいが施設内研修等を実施したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップの再確認を行い、災害時の動きなどを都度確認している。	ハザードマップでは敷地の一部(駐車場)が土砂災害の危険区域にかかるが、その時には建物の一番遠い場所に避難することとしている。町内会長が毎年春に挨拶に来訪し、災害時の応援を約束してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方が多い為、声かけに大きな声が必要な状況ではあるが、声かけの内容などに配慮し対応するようにしている。	耳の不自由な女性利用者の大声に、他の利用者からクレームが出てトラブルに発展することがある。その雰囲気を感じ、トラブルとなる前に職員はさりげなく両者の席を遠ざける対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誰もが個々に思いがあることを理解し対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかには決まってはいるが、少人数ホームの良さを生かした対応がしたいと考えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定ができるような対応をこころがけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事を楽しみにされている方もおり、行事食などは特に楽しんでいただけるように都度スタッフでも相談し実施している。食事は職員も一緒に食べている。	利用者の楽しみであった外食が、昨年11月の「回転ずし」を最後に中断している。季節を感じさせる柏餅や土用の鰻を提供し、ひな祭りのちらし寿司や彼岸のおはぎ、誕生会のケーキは職員の手作りである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量などは毎食記録に残し、体調の変化などの目安にもなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の往診が月に1回、歯科衛生士による口腔ケアが月に2回あり食後の口腔ケアとともに口腔内の状態の安定には配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄の人しかいないため、ご本人のタイミングで介助している。おむつの使用はよほどの状況でない限りは積極的には使用していない。	ほとんどの利用者が布パンツやリハビリパンツにパッドを着用し、ポータブルトイレの利用も無く、全員がトイレでの排泄を基本としている。睡眠を阻害することが無いよう、夜間はトイレ誘導をしない利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録があり、排泄のリズムなどをつかみ必要時には看護師や医師に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ずつ行っている。入浴の時間の話などを楽しみにしている方もおりなるべくゆっくりと介助を行えるように配慮している。	1日置き、週に3回の入浴を基本としている。強い拒否があった場合には無理強いせずに対処しており、やや長い期間無入浴の場合もある。既往歴から、体調を考慮しながら入浴を支援する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息も大切な時間であり、様子を見ながら日中でもベッド休養などをしていただく。夜間もよく眠っていただけるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容など薬情報を確認したりしながら把握に努めている。様子が変わった時などに医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけて、生活の中に役割を持っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の観点から外出はなかなか難しいが施設の敷地内の屋外で食事をしたり近所の神社へ行ったりして気分転換が出来るように支援している。昨年の寿司外食を覚えていて楽しみにされている利用者もおり何か出来ないか模索している	コロナ禍により外出自粛の措置を講じている。転等・骨折のリスクを抱える利用者が多く、ホーム周辺の散歩も数名の利用者に限定されている。昨年11月の「回転寿司」を最後に、企画外出は中断している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持ち込みはトラブル回避のためにお断りしている。一部の方が少額のお金は持っているが責任についてはご家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けることで落ち着かれる方もいるため、ご家族に承諾をいただきかけさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物をはがしてしまう方が一部いるため積極的に掲示などは行っていないが、過ごしやすい空間や座席の位置を常に模索している。	ホーム内に華美な飾付けや掲示物はなく、民生委員の好意によって「板絵」が飾られ、定期的に交換されている。新たな利用者があったときには、利用者同士の相性を考慮した席替えや、雰囲気を変えるためにテーブルのレイアウト変更を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所はとても重要であり、常に模索し取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にお願いはしているが、なかなか使い慣れたものをもってきてはくださらないが、利用者によってはモノにこだわる方もおり必要時にはご家族にお願いすることもある。	家族に馴染みの品の持ち込みを依頼しているが、入居時に新たに買い揃える利用者もあり、持ち込み量は少ない。ほとんどの利用者が昼間はリビングで過ごし、テレビを持ち込んだ利用者も居室で観ることはない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりにくい場所には大きく表示などをして、ご自身で考えて行動して判断していただけるような環境造りも重要と考える。		